

「江南市図書館基本計画（案）」に関するパブリックコメントの結果について

意見の募集期間 平成31年1月28日（月）から2月27日（水）まで  
 意見を提出された方 19名  
 意見の件数 52件

意見の概要、市の考え方をまとめたもの

（※意見の概要につきましては、とりまとめ及び要約をしています。また、江南市図書館基本計画に関連する内容以外は記載をしておりませんので、ご了承ください。）

1.【諸室について】 11件

●市民活動の場の提供について

<p>意見の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市市民活動推進センターを利用していた頃、色々な団体や補助金などの資料があり、いつも団体のミーティングなどで賑わっていた。江南市の人口では専用のスペースとして設けるのは難しいかもしれないが、他のスペースと併用してでも、学生などが社会活動を行うきっかけの場があると良いと思う。</li> <li>・ロビーを設け発表の場として使用できるようにする。</li> <li>・図書館自体の質の向上と同時に、せっかくの駅前施設なのですから、イベント面、アメニティ面での改善も期待したい。いつでも借りられる「レンタル会議スペース」もよいと思う。名駅の「ウインクあいち」のような使い方ができる施設もいいかもしれない。</li> </ul>
<p>市の考え方</p>	<p>新市立図書館におきましては、飲食可能な「ロビー」を設置して、利用者が休憩したり、会話や交流を楽しんだりすることができるようにし、イベントなどの情報発信や市民の作品を展示する「情報スペース」を設けます。</p> <p>また、複合公共施設内には、市民活動やコミュニティ活動を支援する場、地域の人たちが交流を深める場としての「交流スペース」を設置し、会議室も設けます。</p>

●地域や併設の公共施設との連携について

<p>意見の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新市立図書館は駅に近接しているため、交通手段も良く、近くには江南短期大学、名古屋芸術大学、県立尾北高校など、芸術や子どもの専門家に溢れている。図書館で見つけた自分がしたいことを、地域の人たちと実践していく多目的ホールや調理室も必要である。</li> <li>併設の「保健センター」や「子育て支援センター」へ来られる親子は江南の力なので、図書館が中心になって結んでほしい。子ども食堂なども新市立図書館から発信していけたら素晴らしい。</li> </ul>
<p>市の考え方</p>	<p>新市立図書館では、図書館サービスに利用できる「イベントルーム」、「情報スペース」を設置予定です。複合公共施設内に設置される「交流スペース」や「保健センター」、「子育て支援センター」と連携をしながら、地域の活性化につながる事業の実施を検討していきます。</p>

●閲覧席について

意見の概要	・開架書棚の近くに読書できる場所（最低 50 席）を確保してほしい。
市の考え方	新市立図書館では、滞在型の利用にも対応するため、個人用閲覧席や、書架際の座席、ソファなど、様々な形態の閲覧席を随所に設けます。

●課外教育、視聴覚利用ができる部屋について

意見の概要	・生徒、幼児への課外教育のできる場所を設ける。 文化的行事ができる部屋（定員 50 名 スクリーンプロジェクター等の視聴覚機材附属）を設ける。
市の考え方	複数人での学習活動や談話に利用可能な「グループ学習室」、各種イベント・講座・講演会等に使用でき、映像機器や音響機器の使用も想定した「イベントルーム」を図書館内に設置します。

●インターネット環境について

意見の概要	・インターネット接続と無線 LAN 設備を持つ 2 部屋を設ける。（定員 20 名）
市の考え方	無線 LAN につきましては、整備を検討し、現市立図書館と同様、インターネットの閲覧はできるように予定しています。なお、著作権の観点から図書館のプリンターからインターネットで検索した内容の印刷はご利用いただけません。

●居心地の良い空間について

意見の概要	・我が家に一日中居てもゆったりすごし、安心感がある。そのような居心地で利用できるような空間、一人ひとりが大切にされる空間が保障できるような図書館でゆったり本を楽しみたい。 ・図書館はそこを訪れる人がゆっくり本を選べ、本を手にとって座って本を読む所がいい。喫茶室も欲しい。
市の考え方	基本計画（案）の中で、新市立図書館の基本方針を 5 つ定めています。基本方針 3 「生活を彩る図書館」の中で、気軽に訪れることのできる居心地の良さや快適性に配慮した空間を提供するとしていることを踏まえ、くつろぎながら新聞や雑誌を読むことができるコーナーを設置するほか、ソファ、個人用閲覧席などを館内の各所へ設置します。 また、基本方針 4 「優しさに手が届く図書館」では、働き盛り世代、障害者、高齢者、外国人、子どもなど様々な人たちが等しく利用できるようなサービスを提供するとしています。 図書館内に喫茶室を設ける予定はありませんが、ロビーには飲食可能なスペースを配置し、その他館内の一部も飲み物の持ち込みを可能とします。

●利用者身近な図書館となるための工夫について

意見の概要	・図書館だけを参考にするのではなく、長野県茅野市民館のような、電車の待ち時間に気軽に利用できるなど、図書館が身近に感じられるように色々な施設を参考に工夫してほしい。
市の考え方	新市立図書館は布袋駅に隣接して整備予定の複合公共施設内に移転することから、資料を借りるための場のみではなく、交流の場、憩いの場として、気軽に利用していただけるように整備していきたいと考えています。

●スペースの有効活用について

意見の概要	・少しのスペースでも空間利用し、読み聞かせや人形劇上演などできるよう工夫してほしい。
市の考え方	「児童開架ゾーン」には、床に直接座ることができ、イベントの際には仕切りをしたり、内容に合わせて照明を調整したりできる、「おはなしスペース」を設けます。また、「イベントルーム」でも子どもに限らず、幅広い世代を対象として、読み聞かせなど各種イベントを行うよう考えています。

2.【蔵書について】 6件

●国立図書館などとの相互貸借について

意見の概要	・市立図書館では、蔵書数は限られるため、国立図書館や大学の図書館と連携して、市立図書館にはない専門的な本も市立図書館で借りられるようにしてほしい。
市の考え方	国立図書館や大学の図書館で貸し出し可能な資料につきましては、現市立図書館を通して依頼し、郵送料等実費をいただいた上で借用が可能な場合があります。また、県立図書館を始めとする県内の公立図書館や他県の公立図書館とは定期便にて資料の相互貸借を行っています。新市立図書館においても、現在と同様、他館との相互貸借を継続していく予定です。

●図書館規模・蔵書規模について

意見の概要	・他の町と比べても図書館が古く、小さく情けない。大きく、新しく、たくさん本を入れてほしい。
市の考え方	新市立図書館の面積は、現市立図書館の約3倍である約3,000㎡（共用部分を除く）を、蔵書規模につきましては、約30万冊を予定しています。

●資料の購入について

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一気に本の冊数を増やすのではなく、毎年徐々に冊数を増やしていくことが重要だと思う。</li> <li>・現市立図書館の蔵書数が約 12 万冊、これを 30 万冊にするにはかなりの予算を組む必要がある。3,000 m<sup>2</sup>の図書館、10 万人都市に相応しい蔵書ができるだけ早く達成するために、図書館の予算を取ってほしい。</li> <li>・見応えのある十分な規模、蔵書の確保、特徴のある図書館となることを期待している。特徴がなく、中途半端な施設では、飽きられてしまう。現市立図書館では利用しようとした際に必要な専門書がなく、自分で購入をするしか方法がなかった。</li> </ul>
市の考え方	<p>図書の購入につきましては、蔵書の鮮度や魅力の維持の面から、一定の期間が必要と考えますので、新市立図書館の開館に向け、基本計画で示した資料収集計画に基づき、段階的かつ計画的に資料の充実を図っていきます。</p>

●開架書籍、ウェブでの目次概要付の書誌案内について

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全保有書籍を蔵書し、開架書籍をできるだけ多くする。目次概要付の書誌案内をウェブでも見ることができるようにする。</li> </ul>
市の考え方	<p>市内の各公共施設で保有する書籍もありますので、全保有書籍を新市立図書館で所蔵することは困難です。また、開架冊数につきましては、他自治体の状況や開架資料の更新率（年間受入冊数／開架冊数）を踏まえ、蔵書冊数の半分を開架とします。新市立図書館の蔵書規模が 30 万冊であるため、現市立図書館の約 1.5 倍である、15 万冊の開架冊数を予定しています。</p> <p>ホームページでの目次概要付の書誌案内につきましては、今後検討していきます。</p>

3.【分室・移動図書館・交通について】 13 件

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の図書館を残してほしい。布袋では遠くなるので利用が難しい。江南市も人口が増え、いくら新しく大きな物が出来ても利用出来なければ意味がない。</li> <li>・市内の人が等しく行きやすくなるよう複数作って欲しい。</li> <li>・布袋に図書館ができると、江南団地からはバスに乗って電車で布袋まで行かなくてはならず、お金も時間もかかる。巡回バスを出し、今までの図書館も残してほしい。</li> <li>・一人で図書館に行けない子どもたちやお年寄りのために、巡回バスを走らせるべき。その人たちのために、分室を設置するとしているが、分館ならともかく、分室では図書館の役割は全く果たせず、住んでいるところによって、市民へのサービスが異なることにならないか。</li> <li>・図書館そのものをあれこれ言う前に、そこに出かけるまでの道のりがてっとり早く、容易に行けることが大切。どこからでも、誰でもいくことができる交通網の充実が大前提となる。バスを走らせてほしい。</li> </ul>
-------	--

意見の概要

- ・図書館を訪れるためには公共交通の便が良いのがいい。
- ・住みやすい町には、市民が気軽に使える図書館が何箇所かに点在している。また、意識の向上や文化の発信基地としての役割もあると思う。そして大事なのは、行きやすいということである。

「どこからでも行ける場所」。車の利用者が多いと思うが、駐車場が小さいと利用しない。また、交通費が高いと行く気にならないので、安くて行ける図書館を希望する。
- ・巡回バスの図書館もあつたらいい。年をとって自分の住んでいる地域にまわってきてもらえると、いつまでも楽しみが増えると思う。
- ・タウンバスに乗り江南に住んでいる人たちが楽しく集える図書館になるとよい。
- ・新市立図書館へ行くには、車や自転車以外では、電車とバスを乗り継いで行くしか方法がない。また、今の公民館の図書室は、古い図書と寄贈された図書しかなく、学習室の機能と本を借りるだけの機能しかない。巡回バスが必要。
- ・公民館、学習等供用施設の図書コーナーは、あまり活用されていない様子。歩いて行ける場所に利用できる図書館機能があり、図書館との十分な連携がとれていることが重要。それぞれの施設での特化した選書、例えば歴史図書コーナー、科学図書コーナー、絵本図書コーナーなどそれぞれの地域特性を活かした選書ができればよい。

図書館職員のゆとりある配置で江南市内各施設の巡回活動を積極的に行い、図書館職員、ボランティアのコラボで図書館活動を活発にしていきたい。

新図書館を中心とした、江南市全体を網羅する図書館ネットワークで、点の図書館から線のネットワーク、市民一人ひとりに届く文化活動の拠点となるようソフト面の強化を望む。
- ・現在、公民館にある図書室は、図書室と呼ぶにはデッドスペースになっていると思う。分室にすると多額の維持運営費がかかり、それに見合う利用があるか疑問である。その経費は魅力ある新市立図書館に使うべきである。魅力的な新市立図書館を作れば、市民は足を運ぶと思う。
- ・新図書館の最大の問題は、立地が市南部に偏りすぎていることである。立地を変えることができないのであれば、それを補う充実したサービス網が必要。学習等供用施設や学校図書館の使用は費用面や管理面から困難であると考え。そこで、移動図書館を配置し、市内各地を月1～2回巡回させることを提案する。現在、オーパック（図書検索機）は支所のある3箇所だけに配置されているが、移動図書館の巡回先を市内数十箇所とすれば、巡回先で直接に本に触れる楽しみを市民に与えることができる。一宮市や各務原市も行っている。

市の考え方	<p>巡回バスにつきましては、市内公共交通機関の計画の中では、現在予定はありません。駐車場につきましては、複合公共施設の駐車場の中で図書館利用者も含め考えていきます。また、本計画では、移動図書館につきましては予定していません。</p> <p>新たな分室につきましては、新市立図書館への来館が難しい利用者のための施設として位置づけており、より多くの図書館資料の利用につなげるため、市内に3箇所あります市立公民館内に設置することを検討しています。新たな分室では、現在の蔵書内容の見直しをはかり、児童書のほか、子育てや健康関連の資料など、地域の生活や課題解決に役立つ資料を中心に提供し、蔵書検索機を設置する予定です。また、新市立図書館の司書が定期的に巡回し、蔵書の管理や配架を行うとともに、公民館の諸室などを活用し、新市立図書館の職員による絵本や紙芝居の読み聞かせなどのサービスを行うことも検討しています。</p> <p>資料の受取・返却サービスとしましては、現在と同様、市内公共施設8箇所に貸出・返却ポイントを、江南駅に返却ポストを設置します。</p>
-------	--

#### 4.【管理運営方法について】 7件

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新市立図書館の5つの基本理念を読み、理想の図書館がほとんど盛り込まれていたが、これを運営していく館長のことが明確になっていないことが残念。経験豊かな熱心な方を是非公募してほしい。</li> <li>・高額な資金を使って作るため、作ってから市民に喜ばれるものでないといけないと思う。そのためには、設計段階においても、図書館長を公募して専門家の意見を聞くとともに、市民からの意見も聞くべきである。他から羨ましがられるような図書館は大抵そのようにして作られている。できてから、がっかりするような図書館にならないように最善の努力をしてほしい。</li> <li>・民間委託はしないでください。</li> <li>・市は指定管理者制度を導入したことによって、図書館のサービスが良くなったと評価しているが、これまでの図書館運営に市がいかに責任をもって取り組んでいなかったかの表れではないか。現市立図書館は、エレベーターが未設置、バリアフリーも数年前にやっと対応し、1人当たりの蔵書数も県内で最低レベルである。教育委員会には、10万人都市の江南市で、文化の拠点としての図書館であるという認識が全く欠けていたと思う。図書館の管理運営においては、館長の裁量が大きな影響力を持っている。本気で「図書館を江南市の文化の拠点とする」と言うのならば、図書館運営に精通し、情熱のある館長を公募し、市の職員として迎えるべきである。また、1,2年ではなく長いスパンで図書館運営に関われるように配慮すべき。</li> </ul>
-------	---

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現市立図書館の職員は、正社員ではなく時給も安い。身分が安定していない状態の職員の善意で成り立っている。「指定管理者制度は経費が安くつく」という理由で、指定管理者制度を導入するのは間違っていると考える。市の公共施設で働く人の生活や権利を守ることも市の責任としてあるのでは。</li> <li>・基本理念にある「市民一人ひとりの暮らしに寄り添い、幸せをかたちにする図書館」を実現するためのキーマンは館長にあると思う。市民も参加し一緒に作り上げていくものではあるが、方針を持ってかじ取りをしていく館長には、図書館行政、サービス、事業に造詣の深い方をお願いし、専任館長として安定した環境を整えた上で、じっくりと新図書館を育てる業務を担ってほしい。</li> <li>・新市立図書館は直営で運営するべきである。江南市の図書館行政の現状は、指定管理者制度の導入により、市職員が図書館の現場にいなくなり、経験・知識等がなくなってしまっているのではないかと考える。仮に指定管理者が期間満了後に継続せず、誰も応募しないような状況となったとき、質を維持したまま直営に戻すことができないのではないかと危惧する。トップランナー方式における図書館管理への指定管理者制度導入に係る課題等が示されている中、新しく建設する図書館は、江南市が責任をもって直営で行うべきであると考えます。</li> </ul>
市の考え方	館長を含む新市立図書館の管理運営方針につきましては、江南市図書館基本計画策定委員会、パブリックコメントなどでの市民の方のご意見を参考に、利用者のサービス向上と効率的な管理運営のあり方を総合的に判断し、市の方針に沿って今後検討していきます。

## 5.【サービス内容について】 9件

### ●資料の貸出期間について

意見の概要	・資料の貸出し日数は1週間前後でやってみること。
市の考え方	他の公立図書館の多くも2週間の貸出期間としていることから、新市立図書館でも資料の貸出期間は、現市立図書館と同様、2週間を予定しています。

### ●図書館職員の対応・サービス内容について

意見の概要	・アンケート結果を見ると、現市立図書館は、職員の対応が良い、努力されていると評価が高い。器だけ充実していても良い図書館とは言えないので、今のスタッフの対応・サービスをもって新図書館が出来れば、より良い図書館になると思う。
市の考え方	新市立図書館のサービスにつきましては、アンケートやワークショップ、ヒアリング調査の結果を反映したサービス計画に基づき、より充実した内容となるよう実施をしていきます。

●子育て支援センターとの連携について

意見の概要	・子育て支援センターも入るとのこと、上手く図書館との融合ができるといいですね。
市の考え方	「保健センター」や「子育て支援センター」も併設されることから、親子連れの利用の増加が見込まれます。親子で本にふれあい、ゆったりと過ごすことのできる場を作るとともに、保護者の抱える不安や悩みの解消に資する資料・情報を発信し、「保健センター」や「子育て支援センター」など関係機関との連携を図っていきます。

●企業と提携したサービスについて

意見の概要	・仕事をしていて、なかなか新図書館に足を運べない方、江南北西部にお住まいの方に向けて、夜遅くまで営業をしており、ついでに立ち寄れるショッピングモールなどの商業施設や江南駅等に予約本受取機・返却機を導入したら便利だと思う。市と企業の連携で江南市の図書館が盛り上がり嬉しい。
市の考え方	現在のところ、貸出し・返却のサービスポイントは、現行の9施設（江南駅は返却のみ）を予定しています。市と企業の連携につきましては、今後検討をしていきます。

●サービス内容の周知について

意見の概要	・障害のある方、高齢の方等、新市立図書館に足を運べない方もいる。ICT化が進んでいる中、現市立図書館は宅配サービス・公共施設への配送サービスという素晴らしいサービスが行われている。基本計画の中で、これらのサービスを知らない人が多いことがわかった。新市立図書館でも継続するサービスなので、多くの人に周知をしてほしい。電子図書館サービスも楽しみである。
市の考え方	新市立図書館で実施する新たなサービスも含め、より多くの方に利用していただけるよう、周知方法について検討します。

●パソコン、タブレットについて

意見の概要	・パソコン、タブレットの常置（20台）
市の考え方	パソコン端末やタブレットにつきましては、台数は未定ですが、導入する予定です。

●市民講座の開催について

意見の概要	・市民講座の主催者としての活動
市の考え方	現市立図書館では、ボランティアや図書館スタッフによる各種講座を開催しています。新市立図書館においても、生活上の課題をテーマとした講座や健康・歴史などに関するイベントの開催や、新たな分室を利用した新市立図書館職員による読み聞かせの実施などを検討します。



●在住外国人へのサービスについて

意見の概要	<p>・策定委員会の議事録および基本計画（案）に在住外国人に対する記述がない。江南市データからも在住外国人が 1712 人（2018 年）、国籍は韓国、ブラジル、中国、フィリピン、米国その他と多岐に渡り、2014 年から約 340 人増と今後も漸増が予想される。</p> <p>国際交流協会によると、古知野の拠点建物で料理教室などの交流会、藤里小学校の空き教室を使い、児童の語学教室などが行われているとの事ですが、将来的には新図書館にも多言語サービスは必要と思われる。</p> <p>従い、多言語の情報資料と共に蔵書、および成人・児童を含む日本語教室及び各種交流室などの設備が望ましいと考える。</p>
市の考え方	<p>基本計画（案）の 7.2.サービス計画（4）優しさに手が届く図書館 3）来館・利用が困難な市民を手助けの項目において在住外国人の支援に関する記述をしています。現在、市では江南市国際交流協会と連携を図りながら、多様な文化が共生するための施策を推進しているところです。また、現市立図書館におきましても、江南市国際交流協会ボランティアスタッフによる外国の絵本や紙芝居の読み聞かせなどを実施していますので、基本計画（案）のサービス例に、追加をします。今後も江南市国際交流協会をはじめ、各団体と連携を図りながら、多文化共生社会の実現に向けたサービスを展開する予定です。</p>
修正内容	<p>7.2.サービス計画（4）優しさに手が届く図書館 3）来館・利用が困難な市民を手助けのサービス例に「・図書館ボランティアと連携した外国の絵本や紙芝居の読み聞かせ会の開催」を追加します。</p>

●歴史民俗資料館との連携について

意見の概要	<p>・歴史民俗資料館の主な資料の電子書籍化と、考古学のおよび民俗資料などの陳列物を、ICTにより新図書館からモニター可能な設備を設けることにより、新図書館と歴史民俗資料館の一体化利用の実現を要望する。</p>
市の考え方	<p>歴史民俗資料館所蔵の古文書の電子化につきましては、現在行っているところです。新市立図書館においても、歴史民俗資料館で所蔵する資料のデジタル化・公開を進めていきたいと考えています。</p>

6.【その他】 6件

●一部有料化について

意見の概要	<p>・できることならば市民の税金をできる限り使わない方式を考えていかなければならない。管理面をあわせてPOSシステム、インターネットの利用をふまえて他市の本を江南市に貸してもらう方向性を考えることも重要である。また、図書館がすべて無料だという考え方をやめ、一部負担をするのが当然であるという考え方に改めていかなければならない。</p>
-------	--

市の考え方	<p>相互貸借につきましては、【蔵書について】●国立図書館などとの相互貸借についてをご覧ください。</p> <p>図書館資料の利用料につきましては、図書館法第 17 条で「公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない。」と定めているため、徴収することができません。</p>
-------	--

●開館時間等について

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の営業時間や休業日などについても検討が必要。子ども主体であれば、土日開放が必要と思われるが、利用者の駐車場・駐輪場などのマナーに不安がある。</li> </ul>
市の考え方	<p>複合公共施設内に移転予定のそれぞれの機関の営業時間や休業日につきましては、現在検討をしています。新市立図書館の開館時間は、複合公共施設内の民間施設利用者や布袋駅利用者にも利用しやすいよう、午前 9 時から午後 8 時までを、休館日につきましては、隔週などで月 2 回程度を考えています。</p>

●布袋駅との動線について

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の返却冊数は、江南駅が突出している。このことから、通勤・通学に電車を使っている人が多いことがわかる。布袋駅と新図書館を直結すれば、会社・学校帰りの江南駅利用者も途中下車して、新図書館に足を運ぶと思う。</li> </ul>
市の考え方	<p>隣接する布袋駅から、利用しやすい動線を検討します。</p>

●分科会の設置、有識者の招聘について

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定委員会終了後は、布袋駅東複合公共施設整備事業アドバイザー業務の中で詳細が詰められていくと思われ、一般的なありふれた新図書館建設になってしまう恐れがある。新図書館スペースの区割り、購入図書選定、管理運営、将来の図書館のあり方などといった詳細設計の検討のため、分科会を設け、内容をさらに詰めることが望ましい。このままでの 2023 年の開館は早すぎると思う。</li> <li>従来の江南市立図書館の運営及び現在ある新図書館構想の枠を超えた豊富な知識・経験をもつ有識者を招聘し、小規模ながらも内容が充実した図書館を目指してほしい。分科会の助言者、詳細計画段階からの助言者、顧問、新館長、様々なことが考えられるが、予算が可能な限り実現していただきたい。</li> </ul>
市の考え方	<p>現在のところ、分科会の開催は予定していません。基本計画（案）で示しているサービス内容を実施できるよう、施設整備計画、資料収集計画に基づき、必要に応じて江南市立図書館運営委員会などで有識者の意見をいただきながら、新図書館開設に向けて進めていきたいと考えています。</p>

●基本理念について

意見の概要	・図書館の最上位の基本理念として「基本的人権として知る自由」を掲げるべきではないか。社団法人日本図書館協会が制定した表現で「図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することをもつとも重要な任務とする」とある。
市の考え方	図書館は、新市立図書館の基本方針1にある「知の拠点」として、市民一人ひとりの読書や学習、課題解決に必要な資料を提供する場ではありますが、その役割は資料や情報を提供するだけではなく、子どもたちの放課後や休日の日常のかつ自由な居場所であったり、気軽に立ち寄り自由時間や憩いの時間を過ごす場所、市民同士の新たな出会いや交流の場といった役割も担います。市民それぞれの生活に寄り添った身近な図書館となるよう、江南市図書館の基本理念は「市民一人ひとりの暮らしに寄り添い、幸せをかたちにする図書館」としました。